

第14回最上小国川流域環境保全協議会の開催概要について

標記の環境保全協議会について下記のとおり開催しました。

第14回環境保全協議会では、「工事の進捗状況について報告」「前回までの協議会における指導事項と対応」「第14回協議会での変更点」「平成27年度環境影響調査の報告」「今後の環境調査」について詳細を説明し、各委員から活発な御意見をいただきました。

記

1 日時 平成28年3月9日（水） 13:30～15:30

2 場所 最上総合支庁5階講堂

3 出席者 11名（2名欠席）

原慶明委員長、伊藤清紀委員、伊藤幸一委員（大山邦博代理）、今井正委員、梅田信委員、大澤康浩委員、笠原裕委員、菊池義明委員、高橋光明委員（信夫榮代理）、横倉明委員、柳原敦委員

4 審議の結果

（1）各委員からの主な御意見（要旨）

- ・梅田委員 【濁度観測】
・本調査では1年を通した濁度の変化が把握できており、今後も濁度の通年観測を継続してほしい。
- ・今井委員 【猛禽類調査】
・本事業が、ここに生息する希少猛禽類に影響を及ぼしているとは考えにくい。
・湛水域範囲内で確認されたサシバとハイタカの営巣木について、今後もモニタリングを継続してほしい。
【ヤマセミ調査】
・本事業が、ここに生息するヤマセミに影響を及ぼしているとは考えにくい。
- ・横倉委員 【イチゴナミシヤク調査】
・イチゴナミシヤクはもともと生息数が少なく、生態も不明であるため、今後も調査を継続してほしい。
【追加重要種】
・RL改訂に伴い、昆虫類の追加重要種2種について、現地調査を実施し、評価を行ってほしい。
- ・原委員長 【ナガミノツルケマン調査】
・試験播種した2箇所が開花・結実が確認されており、今後も調査を継続するとよい。
【追加重要種】
・RL改訂に伴い、植物種の追加重要種9種について、現地調査を実施し、評価を行ってほしい。
- ・笠原委員 【河床状態調査】
・面格子法と線格子法で25cm以上の石の割合が違っているが、今後とも継続して様子を見てほしい。
【魚介類調査】
・アユを中心に考えると、10月の魚介類調査はなるべく早い時期に実施することが望ましい。
- ・信夫代理 【全般】
・流水型ダム上流域の状況も把握する必要があるのではないか。
- ・柳原委員 【全般】
・濁度だけでなく、水温の通年の変化も把握し、ダムの完成前後での変化を把握してみてもどうか。

【開催概況】

